

○小田巻淑子*、小林茂雄**

(*田中千代学園短大、**共立女大)

<目的>高年女性の服装に対する意識と好ましさについて、第48回・49回大会において、それぞれ高年女性・若年女性(女子学生)の調査結果につき、報告した。今回は、中年女性(女子学生の母親)を被験者に調査を実施し、高年女性・中年女性・若年女性の3世代間で、意識の相違について考察した。

<方法>首都圏在住の女子学生の母親を対象に、1997年11月~12月にアンケート調査を実施した。調査内容は、①外出着の好ましさ(24服種、4段階評定尺度、昨年・一昨年と同種の写真を用いた)、②高年女性の服装に対する意識(10項目、3段階評定尺度)、③高年女性が着たい・着たらよい衣服の色彩などである。調査データは単純集計、因子分析などにより解析し、中年女性(母親)、高年女性(祖母)、若年女性(子)の3世代間で比較検討した。

<結果>24服種の外出着の好ましさについては、平均評定値から総じて中年女性の評価が高く、若年女性、高年女性の順であった。また各服種に対する評価は、中年女性と若年女性の評価は、ほぼ同じ傾向を示した。しかし高年女性の評価とは、かなり異なる傾向を示した。茶系や白黒などの、地味な色彩や柄物の服種などの評価が高かった中年女性に対し、高年女性の評価はかなり低く、深紅などの華やかな服種の評価のほうが高かった。また、中年女性が高年女性に対し、着たらよいと思う色に、落つついた暖色系を(ベージュ、紫、ピンクの順)あげているのに対し、高年女性は華やかな暖色系を(赤、ピンク、紫の順)着てみたい色にあげているなど、違いがみられた。